

七ヶ浜レポート 11月

仮設店舗を応援しよう!



もうすぐOPEN! 七の市商店街



今回の津波で大きな被害を受けた魚屋、八百屋、花屋、食堂、カイロプラクティック、床屋、美容院など、**8つの店舗**が、再建への一歩に向けて営業をスタートさせる予定です。

七ヶ浜にある応急仮設住宅は、交通網が不便な場所に設置されているため、**身近に商店**ができれば、**需要も大きい**と考えられます。

「買い物をする」「食べる」というはっきりとした目的があれば、外に出かける頻度も多くなり、そこに人が集まれば、**住民同士の新たな集い・交流の場**となることも期待できます。私たちは、これが引きこもりや孤独死を防ぐための一助に成り得るのではないかと考えました。

この動きを応援するべく、RSYではこれから以下の活動を考えています。

- ・店舗で使用する機材の提供、安価での販売協力の呼びかけ
- ・店の「顔」となる看板の作成
- ・商店街を盛り上げるためのセールやイベントの手伝い
- ・他地域からの買い物ツアーのコーディネート
- ・遠方仮設住宅からの送迎サービス

商店街オープニングセレモニーに向けて様々な取り組みを考えていますのでお時間のある方はぜひご参加下さい!



出店者の想い

【カイロプラクティック】この仕事は地元でできるし、自分の体の動くうちは続けられる。地元が一番暮らしやすい。これまでの客層は70代~80代、40代~50代は半々ぐらい。特に腰痛や肩こりがひどく、**疲れもたまっているであろう40代~50代の一生懸命働くお父さん世代の方**に来て欲しい。

【花屋】**お客様の喜ぶ顔を見る**ことが自分の原動力。商売は物を売るのではなく、人を売るんだなあと思った。仮設店舗も昔からの繋がりを大切に商売をしたい。みんなに喜んでもらえればそれでいいと思う。

【ラーメン】「**みんなの居場所・拠り所**」となるような店づくりをしたい。集会場がみんなの拠り所になっているとは思えない。いつも集まってくるメンバーは同じ。きずな館も限界がある。いずれも「行きずらさ」が要因。でも集まりたい人は一杯いる。そういう人はお金を払ってでもその空間にいたいと思うだろう。**食堂であれば出向くためのきっかけが作**

りやすい。

【鮮魚店】お客さんは大体年配者。仮設住宅に行けば、ほとんどが顔を見せてくれる。若い人でも時々「おいしかったよ〜」と言ってくれる。「**この魚うまかったよ!**」と言ってもらえる瞬間が一番嬉しい。

【青果店】前の年に買った冷蔵庫も全部流され、やる気も無くしたが、**お客さんがいる限りはやっていきたい**と思なおした。今、仮設住宅には特に50代~60代の女性の居場所がないように思う。集会場はもうひと世代上の方々のたまり場となっていて、この人たちは入りにくい状況。**この人たちの居場所が作れればとも思う。**

【美容院】お客さんのほとんどが高齢者で、気軽にお茶を飲みに来れるような店だった。髪を切りに2時間、お茶のみで1時間という感じ。**みんなの憩いの場所、拠り所**となっていた。**お得意さんもいるので何とか続けたい。**

七ヶ浜レポート 11月

仮設店舗「七の市商店街」

★ハッピードリーム看板を作ろう★



第1回11/20(日)、第2回11/27(日)で「七の市商店街」の看板作りを行いました。利用者の中心となる、仮設住宅にお住まいの方や地元の学生、その親御さんも参加して下さい、東北学院大学の生徒さん、名古屋造形大学の先生・生徒さんもお手伝いに来てくださって大賑わいのイベントになりました。

各々の店主さんたちの要望を取り入れつつ、デザインされた看板。幅広い年齢層の方が参加をされているので、それぞれの色が出ていて、とてもかわいくユニークな作品となりました。

看板は店主さんたちがその中から一枚に絞り、それを各店舗の看板にします。残念ながら選ばれなかった作品も12月11(日)のオープニングセレモニー時に展示してさらにその作品は、店主さんが店舗に飾ってくれるとのことです。自分の書いた絵が店舗にずっと残るので、オープン後、訪れても見る事ができて素敵ですね。

ボランティアはもちろん、地元の方が多く参加してくれたこの企画。作成の様子を見に来た店主さんたちの笑顔が、なんとも幸せそうだったので印象的でした。

七ヶ浜レポート 12月

(仮設店舗・七の市商店街)

七の市商店街OPEN!

震災から9カ月の12月11日(日)、仮設住宅入居者を含む500人以上の来客の中、オープニングセレモニーが行われました!



汐見台小学校のみなさんによるソーラン節の演奏や、ボランティアによるブース出展、おもちつきなどで盛り上がりました!!

「一からそろえるのは大変。これだけのお金をつぎ込んで、一体いつ売上ができるんだろう…。そんな不安もあったけど、たくさんの方からのご支援で、なんとかやってみよう、という気持ちにさせてもらいました〜

近くで買い物ができて嬉しい!

商店街はスタートしたばかり、これからどう継続して盛り上げていくかが大きな課題となりそうです。オープン初日にここに足を運べなかった住民の方がいることも事実です。そんな方たちにも来てもらえるような、**地域の拠り所となる商店街**にしていきたいという**店主のみなさんの「夢」**に耳を傾け、RSYは引き続き応援をしていきたいと思ひます。

